

# わたらの健康とくすり

第211号



## 今月の内容

- 眼底検査でわかる眼科の病気～その4～
- ドーピングってなに?
- 機能性ディスぺプシアについて

## ヒマワリ (キク科)

アメリカ原産の一年草で、茎頂に黄色の舌状花と多数の筒状花から成る大きな頭花を付けます。「ヒマワリのタネ」と呼ばれるものは正確には果実ですが、良質の脂肪油を含み、食用、小動物の餌、食用油の原料にします。観賞用より食用として重要で、特にロシアでの栽培が盛んです。さまざまな栽培品種があり、高さ3m、頭花の直径40cmという巨大なものもあります。

写真・文 指田 豊

2013年8月発行

発行者 八王子薬剤センター 茂木 徹

東京都八王子市館町 1097 電話 042-666-0931

協力 八王子薬剤師会

## おくすりQ&A 機能性ディスぺプシア (functional dyspepsia: FD) について

### Q. 機能性ディスぺプシア (以下FD) とはどんな病気ですか？

A. 食後のもたれ感、胃の痛み、胸焼けなどのつらい症状が続いているにもかかわらず、内視鏡検査などを行っても異常が見当たらない病気のことです。この病気の概念は近年新しく確立されたもので、これまで多くは「慢性胃炎」や「神経性胃炎」と診断されていました。本来「胃炎」とは、胃の粘膜に炎症が起きている状態を表す言葉です。ところが、胃炎でも症状があるとは限らず、逆に症状があっても胃炎が認められないことも多々あります。そこで、症状を説明できる異常がさまざまな検査でも認められない場合、「FD」と呼ばれるようになりました。

### Q. どのような症状がみられるのですか？

A. 特に多くみられる症状は、食後のもたれ感、早期膨満感、みぞおちの痛み (心窩部痛) と焼ける感じ (心窩部灼熱感) の4つです。その他にも吐き気や嘔吐、げっぷなどの症状を訴える方もいます。

### Q. 原因は何ですか？

A. 胃の運動機能障害や伸縮性の低下、胃酸の刺激を受けやすくなっている、脳が胃の痛みを敏感に感じやすくなっているなど、さまざまな原因が考えられます。FDは**ストレスで症状が悪化する**のが特徴です。

### Q. どのような治療をするのですか？

A. 一般に**生活習慣の改善**と**薬物療法**が行われます。生活の中で心がけることは、**睡眠を十分にとってストレスをためないように**することや、**適度に運動**をすることです。食生活では、**よく噛んでゆっくり**食べることや、**脂肪の多いものや刺激が強いものを摂り過ぎないこと、決まった時間に食事**をすることが重要です。また、喫煙や過度なアルコールの摂取も控えた方がよいでしょう。

薬物療法では、**消化管運動改善薬** (商品名: ガナトン、プリンペラン、ガスモチンなど)、**酸分泌抑制薬** (商品名: タケプロン、ガスターなど)、**漢方薬** (処方名: 六君子湯など)、**抗不安薬** (商品名: デパス、コンスタンなど) などが症状に合わせて用いられます。最近、世界で初めて**FD治療薬** (商品名: アコファイド) が発売されました。

FDの治療は、**生活習慣の改善が基本**です。それでも症状が変わらない場合には、薬物療法で症状を和らげることのできるのもので、我慢せず主治医に相談しましょう。なお、FDは一度症状がなくなっても再発することが少なくありません。胃に負担をかけない生活習慣を心がけ、根気よく治療に取り組みましょう。

執筆薬剤師 内藤 優

網膜小動脈硬化症・高血圧網膜症

網膜において、動脈は静脈に比べて血管の幅が細いのが特徴で、動脈と静脈の幅の比は正常では2:3とされています。動脈は血圧がかかるために血管の壁が厚く、酸素濃度が高いために明るい色をしています。高血圧や動脈硬化が進むと、動脈は細く直線状になります。また動脈壁が緊張することで光沢が増し、銀色に見えることさえあります。また、さらに進行すると網膜出血や網膜浮腫が認められてきます(図1)。しかしながら視力や視野に異常を来すことは稀であり、ほとんどの場合は内科的な治療を優先します。



図1 高血圧網膜症  
網膜動脈(赤矢印)の狭細化・直線化・反射亢進。網膜静脈(青矢印)はほぼ正常。網膜にはしみ状出血や綿花様白斑を認める。視力・視野は正常。

網膜出血・眼底出血

眼底出血は「網膜出血」とほぼ同義語です。網膜に出血を来す理由は多種多様ですが、全身の異常を反映したものと、網膜での異常を反映した眼底出血があります。

全身の異常を反映した眼底出血

もっともよく見られる網膜出血は糖尿病によるものであり、「糖尿病網膜症」と呼ばれます。糖尿病網膜症は段階的に進行していきますが、初期段階では高血糖により末梢血管の血管壁が壊れて出血を繰り返す、網膜では点状の出血があちこちに見られる「単純網膜症」と呼ばれる病態を呈します(図2)。進行すると血管の損傷によって血流低下した部位が網膜内に出現し、ここから「新生血管」と呼ばれる不可逆性の異常血管が出現します。

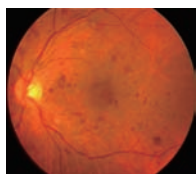


図2 単純網膜症  
点状出血のみ経過観察

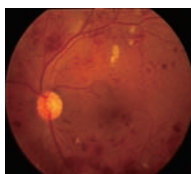


図3 前増殖網膜症  
しみ状出血・軟性白斑  
網膜光凝固適応

糖尿病網膜症に対する治療は、新生血管が出現しているか否かで大きく分けられます。新生血管の出現前は「前増殖網膜症」と呼ばれ、治療は網膜光凝固が適応となります(図3)。新生血管の出現後は「増殖網膜症」と呼ばれ、硝子体出血を伴うことが多く、治療は硝子体手術が適応となります(図4)が、最近では新生血管を抑制しうる抗VEGF抗体を眼球内に投与することで、治療方針が変化しつつあります。また、むやみな網膜光凝固は網膜に炎症性の浮腫を発症させて視力が低下することもあり、治療は非常に難しいものがあります。

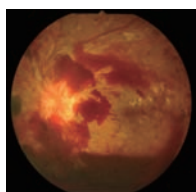


図4 増殖網膜症  
新生血管・硝子体出血  
硝子体手術適応



図5 糖尿病黄斑浮腫  
病変は黄斑部に限局

最近では網膜症のステージに関わらず黄斑部が炎症性に浮腫を起こす「黄斑浮腫」と呼ばれる病態が明らかになり、より複雑な診療対策が求められています(図5)。糖尿病網膜症の診断を受けたら、早めに網膜硝子体専門医と内科の糖尿病専門医の診療を受けるべきでしょう。

東京医科大学 八王子医療センター 眼科 志村 雅彦

ちょっとお耳を……

ドーピングってなに!?

2013年9月下旬から「スポーツ祭東京2013」が開催されます。そこで今回は、ドーピングについてお話しします。



ドーピングって?

ドーピングとは、競技力を高めるために薬物を使用することやそれを隠す行為のことで、ドーピング防止(WADA)規定により該当する行為が定められています。検査で禁止物質の痕跡が認められると、どのような理由があっても違反になり、記録抹消・出場停止といった処分が下されることがあります。

全ての薬がダメ?

禁止物質・禁止方法はWADAの禁止表に定められており、毎年1月1日に更新されます。禁止物質は、以下の3つに分類されます。

- ①常に禁止されている物質と方法(使ってはいけない)  
例)蛋白同化男性化ステロイド薬、ホルモン剤、インスリン類、利尿剤など
- ②競技会において禁止される物質と方法(競技大会中だけ禁止)  
例)興奮薬(メチルエフェドリンや糖質コルチコイド)など
- ③特定の競技において禁止される物質(該当競技以外の選手は使ってよい)

しかし、治療のために禁止薬物を使用しなくてはならないこともあるでしょう。治療目的で禁止物質を用いる必要がある場合には、TUE(治療目的使用に係わる除外措置)を事前に申請します。JADA(日本アンチ・ドーピング機構)のTUE委員会で審査・承認されれば、禁止物質を用いても違反になりません。

「うっかりドーピング」を防ぐ!

日本でのドーピング違反は、ほとんどが不適正な薬であることに気付かず使用してしまう「うっかりドーピング」といわれるものです。例えば、市販の風邪薬を飲んだだけでも検査に引っかかってしまうことがあります(市販の風邪薬には、メチルエフェドリンが含まれているものが多く存在します)。東京都薬剤師会では、うっかりドーピングを防ぐために、スポーツ祭東京2013の3日前から大会期間中、メールでの問い合わせを受け付けています。また、JADAが認定する「スポーツファーマシスト」という資格をもつ、ドーピング防止活動についての情報や知識を持つ薬剤師がいます。スポーツファーマシストが在籍している薬局には、その旨を伝えるステッカーが掲示してありますので、薬の使用に不安を覚える方はご相談ください。

このステッカーが目印です。



執筆薬剤師 小林 千文